

始良市校区まちづくり事業

協議会名： 山田校区コミュニティ協議会

事業名： 第2回山田の里鬼火焚き

参加人数

400名

【事業の内容】

地域行事の一元化と伝統芸能の継承

昨年より、校区コミュニティ協議会主催の年間行事として開催。地域の伝統芸能を地域で継承していくために、披露し発表できる場を作っていく。

	月日	実施内容
事業 スケジュール	11月中旬	企画立案・役員会検討
	11月末	関係先への通知案内承認
	12月上旬	資材調達・郷土芸能練習開始
	12月15日	鬼火焚き櫓作り・鬼面作り
	1月11日	会場最終準備
	1月12日	鬼火炊き・郷土芸能披露

【事業風景】

12月15日（鬼火焚き櫓づくり）

資材は、前日までに各自治会や、団体の協力をいただき搬入しました。

櫓については、組立経験者を中心に、地域住民や中学生や、父兄の皆様の協力により組立する事が出来ました。

今年は、天気にも恵まれ、午前中には櫓を完成することが出来ました。



12月15日（鬼面の色塗り）

山田小学校の子供たちに、竹で編み、紙を張った鬼面に、色塗りをしてもらいました。

校長先生・教頭先生をはじめ、父兄の方も一緒になり、大きな鬼面が完成しました。



1月12日（ 下名棒踊りの披露 ）

小学生から、大人まで 総勢30名を超えた踊りを披露できました。
多くの方の協力をいただき、何度も練習を重ね無事、地域の皆様に復活披露することが出来ました。今後につながる活動を期待したいと思います。

1月 12日（鬼面への矢射て・・・）

弓道部の地元高校生、堂前愛さんに、厄払いの鬼の面に、矢を射てもらいました。
会場の皆さんが、注目する中、見事、眉間を射抜きました。



1月 12日（ 櫓への点火 ）

山田小学校の6年生と、始良市の湯元市長により、櫓に、無事、点火しました。
火は、勢いよく燃え上がり、寒空の中、厄を追いかけてくれました。
当日は、ぜんざいの振る舞いと、あご肉の提供を行い多数の方に喜んでいただきました。



事業を振り返って・・・

地域の多数の方が、積極的に参加協力いただき、事前の準備から当日の運営まで参加いただき地域の一体感が生まれた。

今回、特に下名地区の棒踊り（郷土芸能）が、地域の皆様の協力により復活できた事で、定期的に披露奉納できる事で、継続した活動につながる。伝統芸能の価値大切さを再認識していただけた。